

# 最新がん治療施設 宇都宮に

## 正常な細胞傷つけない放射線機器、2台

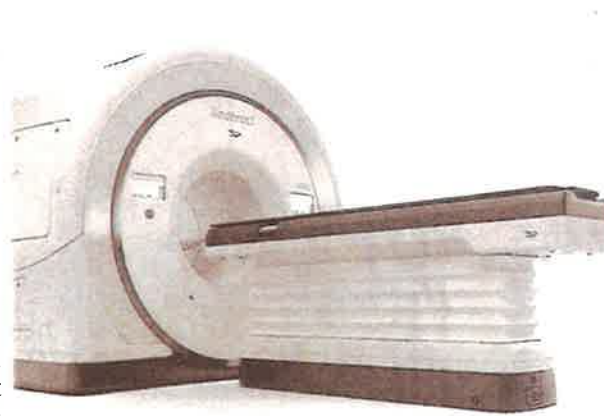
がん患者の治療に使用する最新型の放射線治療機器をそろえた「放射線治療センター」が宇都宮市にオープンする。「宇都宮セントラルクリニック」が同市屋敷町の敷地内に建設中で、12月下旬から診療を始める予定。免疫療法などと組み合わせた新たな技術も確立し、国内最先端のがん治療を施すセンターを目指す。

### 国内3例目、12月開所へ

導入する主な機器は「サイバーナイフ」と「トモセラピー」。前者は転移のない早期のがんに向き、後者は転移が進んだがんの患者にも対応できる。どちらも正常な細胞や臓器は傷つけずに、病巣だけを狙い撃ちする形で放射線を照射できる点が最大の特長。転移性脳腫瘍で全脳照射後に認知症になるなど、旧来の放射線治療で多くの患者が苦しんできた副作用がない。宇都宮セントラルクリニックの佐藤俊彦理事(56)は「放射線治療の施設整備において、栃木県は国内でもかなり遅れている。高齢化が進んで麻酔をかけられない患者も増える中、体への負担がより少ない治療を望む多くの声にこたえたかった」と佐藤理事は話す。



「サイバーナイフ」は自在に動くロボットアームを駆使し、病巣を狙い撃ちする。早期のがん患者や、通院の回数を抑えたい人向き



「トモセラピー」は体の周りをらせん状に回転し、あらゆる角度から狙いを定めて放射線を照射。一度に複数部位の治療もできる



「放射線治療センター」の完成予想図。いずれも宇都宮セントラルクリニック提供

ツクの佐藤俊彦理事(56)は「放射線科医、米トーマスジエフアーンソン大学客員教授」によれば、米国にはこの2台をセットで置いて治療実績を伸ばしている医療機関が多いが、国内で両方を持つ機関は東京都文京区と神戸市に各1カ所あるだけ。建設中のセンターが完成すれば国内3例目、県内や北関東では初となる。

サイバーナイフの場合、例えば前立腺がんや肺がんでは5〜10回の通院で、治療費は60万〜120万円ほど。多くが保険適用となり、自己負担はその3割あたりは1割と、他のがん治療に比べると患者にとって経済的な負担も少ない。

「放射線治療の施設整備において、栃木県は国内でもかなり遅れている。高齢化が進んで麻酔をかけられない患者も増える中、体への負担がより少ない治療を望む多くの声にこたえたかった」と佐藤理事は話す。

クリニックは1997年に開設され、2003年にがんの早期発見に役立つPET(陽電子放射断層撮影)装置を県内で初導入、13年には乳房専用PETなどを備えた女性専用の検査棟「プレストセンター」を開設するなど、最先端の画像診断に力を入れてきた。「開設20年を機にがん治療にも力を注ぎ、治療技術でも日本一を目指したい」と佐藤理事。新設するセンターの整備費は2台の機器の導入経費11億円を含めて16億円ほど。放射線に免疫療法を加え、放射線を照射しない場所のがん細胞も死滅させる治療法なども取り入れて、国内外から患者が集まるセンターを目指すとしている。(杉山圭子)